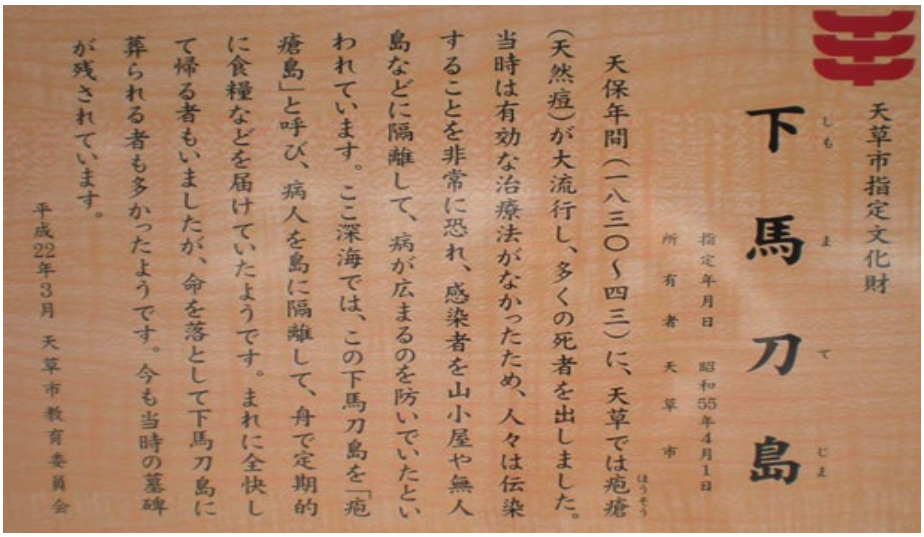
深海の歴史年表

西　暦	元　号	深　海　関　係　の　出　来　事
		「三方を山に囲まれ一方に川あるは、此れ王候の地にして永世墳墓の地なり」と古書に曰く。 之が即ち「大町」（うまち）の地である。 縄文の頃より住み続け、１５００年頃途絶。 昭和に遺跡が発見された。 弥生期 「隼人の名に負う夜声著しく吾は告げまし妻と頼ませ」 これが、「星の浦古墳」の隼人たちのことを歌ったものか？
５世紀～ ６世紀		深海は対岸、蔵之元古墳群の埋葬者の支配下にあった。 係累は不明。
743	天平１５年	天草に雷雨と地震による大被害あり。（１６年５月？）
778	宝亀　９年	天草郡の仲島に遣唐使船漂着す。（１１月） （仲島とは何処か？長島か？不明）
873	貞観１５年	渤海船、天草郡に漂着。乗組員・催宗佐所持の外交文書、弓、剣など押収さる。（７月） この時代の中頃、天草は五つの村に区分されている。
	平安時代	即ち、「志岐」「波太」「高屋」「惠家」「天草」とあり,深海はこの中の何処なのか？深海の対岸に残る「星の浦古墳」はこの時代のものである。
1185	文治　元年	多田蔵人行綱。 彼の行動が不明になっている。 深海という人里に遠い所に隠棲していたからだと思われる。
1233	貞永　２年	２月１６日、「天草種有入道譲状案」の中に、 「ひらうら」（下平）「うふしま」（産島）又太郎入道に、ゆつり候ぬ と、７６０年前に、 「平浦（ひらうら）」深海町下平。 「産島（うぶしま）」宮野河内上平。等の地名あり。 「深海」は「産島」「大多尾」等と共に天草氏の支配下となる。

1239	延応　元年	深海十五社宮の２番目の鳥居はこの年の建立。 同時代、浦河内の「ハナ屋敷」は、海賊のものか？ 「菅（すげ）」に構築された山城が存在したのか？ 「城岩（しろいわ）」 「城下平（じょうかんじゃら）」 「城戸平（きどびら）」 「柵防山（さくぼうやま）」 「屋敷窪（やしきんくぼ）」 等の地名を残す。
1311	応長　元年	「尼妙性避状案」に天草のどこよりも早く「深海」の地名が出てくる。 深海は産島、大多尾等とともに天草氏の支配下になる。 天草氏は一町田（河浦町）の城主。
1543	天文１２年	この年発行の「薩摩船旅の図」に、「平浦」（深海町下平）の地名あり。 当時「平浦港」は、天草東海岸の３港の一つである。
1549	天文１８年	７月、天草にキリスト教が上陸した。
1555	弘治　元年	剣豪「丸目蔵人佐長惠（まるめくらんどのすけながより）」一町田城主「天草伊豆守」に師事す。 経路は天草三大往還の一つ「深海往還」を通ったとしか考えられず。
1589	天正１７年	深海の領主「天草氏」は、加藤清正、小西行長の連合軍に敗る。
1590	天正１８年	豊臣秀吉、浦々の水夫で、６０歳以下、１５歳までを徴用して朝鮮出兵の準備をなす。 深海「波戸の迫」、浅海の浦に残る「船かくし」など、軍船の根拠地ならん。
	同年	一町田に十年制の「キリシタン大学」が開校され、深海往還の往来繁くならん。下平にキリシタンの壷など現代に残す。
1591	天正１９年	キリシタンからの圧迫のため、「浅海」「下平」の寺は何処ともなく離散し、「菅（すげ）」の寺は、鹿児島の「出水・高尾野」に難を逃れる。
1592	文禄　元年	領主「小西行長」朝鮮に出兵す。 深海に小西家の家紋入り「攻め太鼓」と深海独特の「櫓ばやし」を残す。
1600	慶長　５年	「小西行長」関ヶ原に滅ぶ。深海は「加藤清正」の領地となる。
1603	慶長　８年	肥前唐津の城主「寺澤広高」の領地となり悪政に苦しむ。 直接の上司は「河内浦」（一町田）番代「中島与左ヱ門」（食禄４００石）である。
1613	慶長１８年	幕府はキリシタン禁止令を布くが、その火衰えず。 「下平」に「久留子（くるす）」（キリシタン）の家紋など残す。
1630	寛永　７年	重税とキリシタン迫害に堪えかね逃走者出始める。 禄高　天草４５，０００石。 下平１２０石。深海６０石。浅海57石。計２３７石。
1634	寛永１１年	天草の各地は、飢饉のため餓死者が続出。 深海・浅海・下平の住人は合計２００人以下か。
1637	寛永１４年	「島原の乱」起こる。 籠城者以外の公式記録による逃散者は、葦北２３０人。八代２００人。宇土７０人。

1638	寛永１５年	２月２８日、原城陥落。薩摩軍の報告によれば、 「天草は亡所と化し、人の種は尽きてしまった」と。 「菅（すげ）」に落ち武者「金左清門（かねさきよかど）」来たりて開拓を始める。 「球磨郡五ヶ荘」からと伝う。
	同年	２月、「亀浦」（現二浦町）の百姓「与作」以下３５人、禁令に触れたとして、「富岡・冬切」にて処刑さる。
	同年	３月４日、「鈴木重成」乱後の残務整理を命ぜらる。
1641	寛永１８年	天草は「天領」となる。 幕府は、近隣の諸藩に対して「天草」への移民の割り当てを行う。
	同年	深海は「久玉組」に編入され、庄屋「橋口」年寄「鶴長」が世襲して「百姓代」はその時の文筆に叶う者を雇い入れる。
	同年	９月２０日、「鈴木重成」が天草初代代官として「富岡」へ着任。 郡中を回村、宗門改め・民情視察・遠見番所の役人採用・郡中を10組８６ヶ村に区画。 組に「大庄屋」、村に「庄屋」「年寄り」「百姓代」を置いて政令の徹底を期す。
1642	寛永１９年	７月には第一陣が「薩摩」より移民する。 ３０戸・１５５人・馬４９頭。
1645	正保　２年	牛深に「定浦制度」定まり、「深海」はその支配下となる。
1648	慶安　元年	久玉村に浄土宗「無量寺」創建さる。
1653	承応　２年	10月15日、天草代官「鈴木重成」江戸神田の賜邸（私邸）において自刃す。66歳。その養子「重辰」（重成の兄・正三の子）代官となる。 上総の国市原に200石、山城の国・宇治郡に200石、このころ深海湾口南端から現在地に部落が移動をはじめる。
1659	万治　２年	幕府の移民政策が成功し、天草の人口は１万６千人を数える。 郡高減石の申請の宿願が達成さる。 深海村高も240石から160石へ（天草石高半減の頃）となる。
1663	寛文　３年	９月２１日。（現、本渡市本町）東向寺開山。
1664	寛文　４年	４月１１日　代官「鈴木伊兵衛重辰」畿内転封を命ぜられ江戸へ引き上げる。
1691	元禄　４年	「浅海」「深海」「下平」の総戸数４３戸。人口３１５人。 当時の日本の総人口は、約３千万人。
1692	元禄　５年	高野山配流僧（罪を犯した僧）１４０人天草へ。 深海には２名配流。この年久玉吉田の「正光寺」の開祖没す。
1693	元禄　６年	さつまいもの作付け始まる。同時に、牛深、深海方面に紀州より漁師南下す。 この頃、「新銀」が流通し「シンギッドリの卵」等も売られ、ハイヤ節もこのころから唄われた。 「松岡正続」船津と岡を地続きにする。
1699	元禄１２年	「浅海」に２戸の薩摩士族の移民あり。
1707	宝永　４年	牛深村「緒方惣左衛門」鰹漁（かつおりょう）を始める。
1711	正徳　元年	５月。「定」（キリシタン宗門は累年御禁制たり）の高札が庄屋の家の前に立てられた。

1734	享保１９年	「山ン神祭り」の伝承。（すべて伝承された実名である） 　富岡代官所より二名来村あり、調べの結果「卯之吉」「卯之助」の２名が「野蘇」（キリシタン）信者と断定された。村役の庄屋・老寄・百姓代の必死の懇願にもかかわらず、如何ともし難かった。翌日、富岡の「冬切」行きと決定された。 　ただし、「卯之吉」は病身ゆえに、「村養い」となった。「卯之助」の「冬切」行きの朝が、丁度当村の「やまんかみ祭り」の日であった。 　（「やまんかみ祭り」は毎年旧暦１１月の第一丑の日） 　村人は、親孝行であった「卯之助」の孝心をめでて、せめてお祭りの日に「まぜごはん」を炊いて食べさせようと思い、村三役の決定により、当日朝早く村中の人々が「まぜごはん」を作り、食べさせた。 　「冬切」へ送る船は、弁指「浜本家」に指定された。村人は、出て行く船を見送りながら 　「卯之助さらば、さらば」と、見送りながら手を振った。 　この日より1週間後「卯之助」は「冬切」の露と消えた。 　このことがあってから、深海村では、「やまんかみ祭り」を「卯之助」の出航した時刻に合わせて「朝祭り」とした。
1748	寛延　元年	鉄門氏、「徳勝寺」を建立。（深海小学校沿革史より）
1781	天明　元年	深海各地に干拓始まる。
1789	寛政　元年	干し鰯、うっぱなし（松の割り木）、など長崎奉行所へ納める。
1810	文化　７年	４月、細川藩より大庄屋「橋口嘉左衛門」殿とあり。（小庄屋の誤りか） 「伊能忠敬」全国測量の為の来島を告げ、（接待役の件）９月２3日来村止宿、船津・弁指浜へ。水夫（かこ）「山下」を筆頭とし、船18隻、人足62人が、大多尾村庄屋「武部家」まで出迎える。
	文化	中頃から（文化は～１８１７年まで）薩摩藩より「深海村」への移住者があった。 ① 深海4番地（黒崎）の「上村改衛門」一族。 ② 現在の下平大田店「原井信太」（政府高官）父は「原井文中」氏。 ③ 「瀧原和田六」一家。 ④ 「藤中三十郎」（大官・書記・富岡）現「勝楽寺」 ⑤ 「篠原国七」（深海村・漢方医、篠原国幹）の身内か？ ⑥ 「中村　某」（船津・林某） ⑦ 「桐野玄斎」（漢方医）「桐野徳一」「桐野方斎」（浅海） ⑧ 「島津六左衛門」など移住。
1821	文政　４年	「下平」の大火。「深海」の「平内のせがれ」家出す。
1823	文政　６年	「なっごらん浜」を牛深の豪商「萬屋助七」が干拓し、「五反田ん浜」の一町二反歩と併せて水田とし、後に「村崎」家の所有となる。
1827	文政１０年	「深海村」の石高、約１６５石。戸数４８７戸。人口３２７８人。 人口に比し戸数少なきは「名子百姓」の為。 庄屋は「橋口勲左衛門」。
1833	天保　４年	深海村浦河内の海面干潟の事、牛深村の「萬屋助七」が願い出る。

1837	天保　８年	長者唄流行す。 島で徳者は　　大島様よ 御領じゃ石本　勝之丞様よ 富岡町では　　大阪屋 島子で池田屋　三木屋さん 西に回れば　　牛深の 助七様の　　家作りは 味な大工の　　造りかな 海の中まで　　掛け出して 夜昼酒盛りゃ　絶え間なし それでも身上は栄えます
1839	天保１０年	天然痘（ほうそう）大流行す。  天草市指定文化財 下馬刀島 指定年月日　昭和55年4月1日 所有者　天草市 天保年間（一八三〇～四三）に、天草では疱瘡（ほうそう）（天然痘）が大流行し、多くの死者を出しました。当時は有効な治療法がなかったため、人々は伝染することを非常に恐れ、感染者を山小屋や無人島などに隔離して、病が広まるのを防いでいたといわれています。ここ深海では、この下馬刀島を「疱瘡島」と呼び、病人を島に隔離して、舟で定期的に食糧などを届けていたようです。まれに全快して帰る者もいましたが、命を落として下馬刀島に葬られる者も多かったようです。今も当時の墓碑が残されています。 平成22年3月　天草市教育委員会
1843	天保１４年	牛深八幡宮の倒壊した鳥居を「富川仲蔵」より貰い受け深海神社前に建立す。
1860	万延　元年	深海村の戸数、５４５戸。人口、３９３３人
1861	文久　元年	寺子屋の反故紙（かきくずしたかみ）に「広浦弥七」と書かれたものあり。 ５００年前は「平浦（ひらうら）」で、江戸時代初期に「下平浦村」と変化す。 同年７月、「下平」「深海」「浅海」に浄土真宗「正光寺」の説教所ができる。
1864	元治　元年	深海村の役人、庄屋「橋口嘉仲太」年寄「鶴長善平」下平「藤中三十郎」（代官所書記官）代官所制勝組「鶴長道太郎」 廃藩置県。県知事は「佐々木三四郎」 この頃、深海村は宮野河内村と合併村。 庄屋は「武部利左衛門」。なお、寺子屋は庄屋宅。 師範として熊本から来た「古庄友三郎」は、ちょんまげに二本差しで教示する。 「浅海」にも寺子屋あり。

1869	明治　２年	太政官布告により、「苗字」（みょうじ）を名乗ることができるようになる。 太政大臣　三条実美 初代庄屋に 「武部利左衛門」 （大多尾）選ばれ戸長となる。 二代　「田代摂津主菅男」（牛深八幡宮宮司） 三代　「大西宗親」　　（魚貫崎） 四代　「池田　　」　　（宮野河内庄屋）明治２０年まで 同年６月。 　去る江戸末期の頃、「徳勝寺」（説教所）は、寺に昇格せんと「尾上弁寧」は訴えを「京都寺社奉行」に事を起こす。 　「正光寺」の「錬籍」は、門徒四千人の代表として深海の定年寄「鶴長善平」を「京都寺社奉行」まで４回も遣わしたが敗訴に終わった。
1874	明治　７年	深海小学校開校す。（庄屋・橋口正直宅） 各村々、「浅海」「下平」などに「読み書き・そろばん」などの塾始まる。 １８７８年まで「白川県・深海」。 「宮野河内」は第１６大区第８小区となり、官選戸長「大西宗親」就任す。
1875	明治　８年	太政官令により「苗字」を名乗ることとなる。
1876	明治　９年	浅海の「円光寺」、寺号・御堂ともに富岡より購入さる。
1877	明治１０年	１月３０日「西南戦争」起こる。 「橋口元貞」氏宅へ学校移転す。 ３月18日「徴兵」のために（火車船これより先）「鶴長道太郎」西郷軍に参加す。 同日、「藻取り船」新政府に徴用さる。約10隻。船主下記の通り。 地引網主。　「須崎亀吉」「浜本〇三」「鶴長民吉」「須崎久吉」「口脇辰造」「浦木長郎吉」「沖崎光太郎」「濱下音松」「川崎平吉」「浜本重吉」 以上１０名が船を出した。 人夫頭。　「鶴田力三郎」「橋本　某」は力持ちゆえに２人前の人夫賃をもらった。他に「浜本日向ジイ」など２０人が参加した。
1878	明治１１年	西南の役の戦功により深海、「鶴田力三郎」「口元由松」官位十長に賞せらる。 独立区長を置き、「深海村」として独立した。
1879	明治１２年	浅海区民合意の結果、寺号も御堂とともに富岡より購入し、現在地に移転される。
1880	明治１３年	深海村船津の大火。約５０戸を焼失。俗に「オソド火事」と言う。
1884	明治１７年	８月１５日の天草台風により、「仲島屋」の持ち船沈没。 乗組員２７人中２５人遭難。 ２人生存。 生存者は「浜元清市」と牛深市加勢浦の１人、姓名不詳。 １ヶ月後の９月１５日に救出される。

1890	明治２３年	「庄屋」制度終わる。 政府高官 「原合準太」
1894	明治２７年	深海村、学校騒動起こる。学校建築の主唱者「鶴田謙益」「鶴長伊喜治」の２人。 村民こぞって反対する。
1900	明治３３年	深海村に学校建築される。 「鶴長伊喜治」の半額の出費によるもの。
1904	明治３７年	２月１０日。日本ロシアに宣戦布告する。 当戦役への出征者約４０名。 内戦死者「藤川　某」「濱崎　某」の2名。
1912	明治４５年	７月３０日。明治天皇崩御。 ９月、乃木大将夫妻殉死。
1913	大正　２年	魚貫村沖にて長崎オクンチ帰りの船、遭難す。 遭難者８名。
1914	大正　３年	県道「女淵～浦河内線」竣工。
1923	大正１２年	下平の「勝楽寺」は,天正１９年（１５９１）安芸の国亀山の麓「樫田」に創建され、その後、山口県阿武隈郡萩野町字北古萩の地に移転。明治４年（１８７１）廃藩置県のため、住職一族共に山口に移住、「無住持」の寺となる。１２月２２日話がまとまり「勝楽寺」の寺号は移された。
1925	大正１４年	３月１５日。付近の村々の人々も招待されて下平部落を挙げての「勝楽寺」の移転大法要が営まれた。
1927	昭和　２年	深海村の本郷地区に電灯点灯。
1928	昭和　３年	御大典記念式典挙行さる。 村民挙げて提灯行列に参加する。
1931	昭和　６年	東京帝国大学「脇水鉄五郎」教授、六郎次山を視察する。 そして、「下島大観山」と名付けらる。
1932	昭和　７年	波止場竣工す。請負額３４００円。長さ８０メートル。（今は無し）
1933	昭和　８年	大型帆船「千賀丸」（６００トン）馬刀島・琵琶瀬の南側で座礁す。
1934	昭和　９年	深海村 中の迫の大火。４9軒を焼く。 全国の小学生、一銭の献金によって全校舎が復旧された。 一校当たりの総額540円也と聞く。 北は北海道から南は台湾・満州・朝鮮まで
1937	昭和１２年	日支事変(支那事変）勃発。
1941	昭和１６年	大東亜戦争勃発。
1945	昭和２０年	８月、長崎・広島に原子爆弾投下さる。
1945	昭和２０年	８月１５日終戦。
1947	昭和２２年	深海村立深海中学校創立。
1952	昭和２７年	深海中学校新校舎落成。
1954	昭和２９年	市制施行により、牛深市深海町となる。
1956	昭和３１年	「栃光関」寄贈の中学校校門完成。（4月１日） 栃光関は、昭和37年5月23日栃の海関とともに大関に昇進
1964	昭和３９年	六郎次山頂に記念碑建立。

1966	昭和４１年	浅海小学校独立
1968	昭和４３年	深海幼稚園創立
1972	昭和４７年	第１回町民体育祭開催。
1974	昭和４９年	深海小学校創立１００周年記念式典挙行。
1975	昭和５０年	自動電話開設。
1978	昭和５３年	下平の「もんつき唄」県の故郷顕彰に指定さる。
1980	昭和５５年	「星の浦古墳」（市指定考古資料） 「くすのき」（深海小）（市指定天然記念物） 「下馬刀島」（市指定史跡） 「もんつき唄」（市指定無形民族）
2000	平成１２年	下平分校閉校
2005	平成１７年	深海中学校閉校式（3月２０日）久玉中学校と統合され「牛深東中学校」が旧久玉学校に新設される。
2005	平成１７年	新生・牛深市立牛深東中学校開校（８日）
2006	平成18年	牛深市閉市式（3月3日）
2006	平成18年	浅海小学校閉校式（3月12日）
2006	平成１８年	２市８町が合併して新しい自治体「天草市」が誕生（3月27日）
2012	平成２４年	２月　　旧深海小学校校舎解体

この「深海の歴史年表」は、叔父上（川上 豊）が書いた「深海の歴史（１）（２）（３）」（副題：どんくのつぶやき）に出てきた事柄を編集者が年代順に抜粋列挙したものです。

鶴長 研治